

<牧師室から>

長い梅雨は、いつ明けるのだろうか…そのように思っていたら、いきなりの猛暑と雷雨の共演で、夏の到来を思い知らされました。牧師室から映像美や音響美をそれなりに堪能させていただきました。しかし、あれだけ夏を待ち望んでいたのに、今は熱中症、落雷など被害の方が気になり始めています。今さらですが、世の有様は自分の願望どおりに展開するわけではないなあ、と思っています。

8月に平和を覚える…私は、平和は“みんなが”幸せになるときだと信じています。けれども私は牧師生活において、“みんなが”幸せになる展望がまだ見えていません。礼拝宣教で平和の福音、十字架の福音に思いを馳せつつ、戦前戦中を振り返ったとき、ある人はこのようなことを言っていたそうです。親族は宮中にも関わり、戦後の自衛隊発足にも携わり、すべて平和への一念で取り組んでいたことを知っている。なのにその親族の歩みは今日の礼拝宣教で傷つけられた…またある人は、天皇制や日本の軍隊の正義を信じ、裏切られていた頃のことを思い出したと語り、口惜しそうにしていらっしやいました。

私は、平和をあなたがたに残し、私の平和を与える。私はこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

(聖書協会共同訳 ヨハネによる福音書 14章 27節)

十字架の言葉、十字架の平和が、すでに与えられているのなら、私はもっと“聴く”必要があるのでしょうか。“心を騒がせるな。おびえるな”という主イエス・キリストの励ましを心に刻みつつこの夏も試行錯誤していきたいと思います。

<在宅礼拝にあたって>

できる限り日曜 11:00~12:00 に下記の在宅礼拝プログラムをご一緒しましょう。教会堂で共に礼拝を捧げていた時を思い起こし、励みにしていただきたいと思います。なお難しい方には時間の都合のつく折にささげてください。ことば(声)を通して聞く、賛美歌は奏楽者のリードで会衆一同、歌うことによって捧げていますが、在宅の礼拝の場合は、以下を参考にして、夫々の工夫によってささげましょう。わからないことは、牧師にお尋ねください。

- ・「招詞」
招きのみ言葉です。
この礼拝に招かれていることを感謝し、聖書のみ言葉に聴きましょう。
- ・「聖書」
御言葉をゆっくり味わいましょう。音読するなどの方法もおすすめです。
- ・「感謝と献金の時」
献金は、感謝と献身の表しとして捧げられるものです。1週間の出来事を思い起こしての感謝と応答を祈りましょう。献金を直接ささげることができないこの時には、封筒に入れるなどして、教会堂での礼拝が再開された折ご持参いただければ幸いです。
- ・「賛美」
歌詞を読んで味わうなどでも結構です。ユーチューブに収録されている賛美に声をそろえるなどの方法も考えられます。
- ・「メッセージ」
「メッセージ要旨」をお読みください。
- ・「祈祷」
メッセージから受けた恵みや、祈りの課題を含め示されたところを祈りましょう。
- ・「頌栄」
「ベネディクション」の賛美を通して主の祝福を心に受け、来主日に向けた新しい一週間を共に歩み出していきましょう。
- ・「祝祷」
お互いに主の祝福を祈り合い、また主の祝福が世界各地に満ちるよう共に祈りましょう。

＜在宅礼拝プログラム＞

- ・招 詞 詩篇 148 篇 14 節
- ・賛 美 新生讃美歌 59 番 「父の神よ 汝がまこと」
- ・感謝と献金の時
- ・主の祈り
- ・聖 書 出エジプト記 3 章 1 ～ 15 節 （口語訳旧約聖書 76 頁）
- ・メッセージ 「わたしは誰か」
- ・祈 祷
- ・賛 美 新生讃美歌 426 番 「語りませ主よ」
- ・頌 栄 新生讃美歌 679 番 「ベネディクション」
- ・祝 祷

<メッセージ>

本日の聖書箇所について聖書教育 p.50 冒頭にはこうあります。“モーセは最初の数年をヘブライ人として育てられ、40歳までをエジプト人の王子として生き、そこを追放され80歳までをミディアン人羊飼いと過ごしています。「わたしは誰か」(3:11 直訳)と自分の帰属に悩むモーセに、神が現れ、新しい使命を与えます。” 「わたしは誰か」…この悩みは現代人にもあるように思えます。たとえば学校のいじめ問題やブラック企業の職場問題などで、逃げれば良い、という声があります。たしかに逃げる自由は神の恵みとしてあると思います。(1コリント 10:13 参照) が、では、どこへ逃げれば良いのでしょうか。どこに逃げたら本当に自分らしく生きられるのか、その行き先について関わろうともせず、ただ逃げなさいと言って終わってしまうなら、迷子になりなさい、と言っているのとあまり変わらないように思えます。またたとえば、愛する人を失うことで自分の居場所がわからなくなるような場合もありましょう。自分はなぜ今ここに生きているのか、自分は何者なのか…帰属の問題は命の問いに他なりません。自分の行くべきところ、いるべきところは絶えず大切な問いです。そして聖書の神は、そのような命の問いによって悩んでいる人を放っておくようなお方ではありませんでした。命の主として命の問いに向き合い応えてくださる救い主でした。

聖書教育 p.50 末尾にはこうあります。“神の名は神の性質を示します。14節は「わたしは成りたいものに成る」と訳せます。また伝統的に「主」(3:15)と訳されている「ヤハウエ」という名前は、「彼は生起させる」という意味です。これらの名前は神が自由に歴史に介入され、出来事を起こす方であることを示しています。神を遠く感じたり近くに感じたりする原因は、神の自由さにあります。” ヘブライ人なのか、エジプト人なのか、ミディアン人なのか…自分が何者なのかわからなくなっていたモーセに神は救いの手を差し伸べます。本日の聖書箇所では神はモーセに対して「今のお前こそが役に立つ」と励ましているようです。では誰のために？…まずは神のために、です。私たちは礼拝を捧げると、神のために生きるよう励ましを受けるのではないのでしょうか。人は誰かのために生きようと志すとき、何者であるかが明らかになります。神と出会ったモーセも、イスラエル救済という神のみわざに仕えるよう励ましを受け(3:10)、自分が何者であるかが明確になっていったのではないのでしょうか。とくにモーセにはイスラエルの民に対して苦い過去がありましたから(2:11~15)、先ほどの聖書教育にもありますように、神は“成りたいものに成る”お方として、モーセとイスラエルに対して“和解の主”と成ってくださったのではないのでしょうか。救いの民にとって“神の自由”は、遠いものどうし、隔てられているものどうしの間にご自身を現す“神の愛”だったのではないのでしょうか。(エペソ 2:11~22 参照) 私たちが神さまを遠く感じるとき、または見えなくなっているとき、普段見過ごしたり、目を背けたりしている方向にすでに主が先立ち、手招きしておられるのかも知れません。

私たちは今、新型コロナ感染でさまざまな社会的制限や、自分の限界などを味わっています。しかし無力感、虚無感などに囚われている今こそ、今までになかった新たな発見、新たな出会いが“生起”される明日へと招かれているに違いありません。私たちは神と共に生きるよう励ましてくださっている神、そして本当の自分らしさを発見するよう私たちを招いて

くださる神を共に仰ぎつつ、共に礼拝をお捧げしていきましょう。

<祈りの課題>

- ・全世界で新型コロナウイルスの感染が拡大しています。脅威にさらされ困難の中にある方々のために、また治療にあっている医療機関の方々のために、予防法や治療法が示されますように。
- ・この度の九州、東北を中心とした集中豪雨により被災された方々を覚え、お祈りください。また、速やかな復旧を願って働かれている皆さんのために。
- ・東日本大震災、熊本地震、今年の台風15号・19号、その後の大雨等によって被災され、痛み、悲しみの中にある方々を覚えて。また震災支援の働きに仕えている連盟、諸教会、伝道所を覚えて主のお支えがありますように。
- ・9月には会堂での礼拝再開の道が開かれますように。また在宅礼拝期間中もお互いの祈り合い、支え合いが守られていきますように。

<報告>

さいたま市など全国で広がるコロナ再感染と夏場の熱中症リスクの狭間で換気(窓開放)も難しいため、8月末まで会堂での礼拝、諸奉仕を再休止とします。あわせて会堂での諸集會も休止継続です。

今後の状況によって期限の変更を行う場合は、改めてお知らせします。

2020年度北関東地方連合 8.15 集會

日時：2020年8月15日(土)11:00~12:30

場所：zoom ミーティングによるテレワーク集會(礼拝及び祈禱會)

ミーティング名「8.15 集會・きたかん社会委員会主催」